

10年前の石巻赤十字病院の事は今でも覚えています。

さぞかし大変な思いをされたと思います。

現在はコロナ禍もあり、

今まで通りの生活スタイルはできませんが、

天気の良い日は散歩して気分転換を

してみてはいかがでしょうか。

相模原赤十字病院 あいはら



広島赤十字・原爆病院 中村寛

雄勝のきれいな海、美しい景観。10年前、救護活動に携わる職員としては微力でしたが、あの景色にとても癒されたことが大変印象に残っています。

富山赤十字病院 H



発災から1週間が経過した

石巻赤十字病院にて、病院支援要員として活動させていただきました。

震災直後の大変な時期にもかかわらず、互いに助け合いながら来院される姿が印象に残っています。

これからもどうかお体に気をつけてお過ごしください。

長崎県赤十字血液センター いすみ



震災発災後、石巻専修大学での救護所や市内の巡回診療を行わせていただきました。今と同じ厳しい寒さを思い出しますが、震災から10年が経ち、記憶を風化させないためにもメッセージを発信することが大事だと思います。コロナ禍の状況ですが、健康には十分お気をつけてください。

高知赤十字病院 猪原俊平

石巻への道中で「私たちの分まで頑張ってきて！ ありがとうございます」とお声かけいただき、石巻での活動中にも沢山の“ありがとうございます”をいただきました。復興に向けて歩み続けておられる皆さんのことと想うと、大変な時に「我々も頑張るぞ」と力をもらいます、ありがとうございます。

富山赤十字病院 H

きずな新聞のお届けを通じて、石巻に三度伺いました。仮設住宅や復興住宅には、お一人で住んでおられる方が多かったのが心に残っています。

80代で一人住まいの母の事にも重ねて、皆様今はどんなお気持ちだろうかと思ひを馳せています。

どうかお体を大事になさって下さい。

きずな新聞 マニー(埼玉)



震災後、石巻では避難所を回り、心のケア班としてお手伝いさせていただきました。テレビ等のメディアでは少しずつ復興が進んでいるようですが、見える復興ではなく、みなさまの心の復興も進んでいけるよう願っております。

今津赤十字病院 青木俊整

きずな新聞のお届けに石巻へ二度伺いました。快く玄関を開けて「少し苦労様」と笑ってくださったり、お茶っこに招いてお話を聞かせてくださいました皆様のことと思い出す度に、早く会いに行きたい気持ちでいっぱいになります。またお会い出来る日を楽しみにしています。お身体に気をつけて。

きずな新聞 きむ(名古屋)



昨年からの感染拡大で、大変な日々をお過ごしと思います。10年前の震災と重なる部分があり、思い出される事もあるのではないか。しかし私たちは、励まし合い、絆を築いてきました。今は寂しい時間も多いため、きっとまた笑って過ごせる時が来ると信じています。

きずな新聞 わっさー(塩竈)

3月と4月、2回救護に参加しました。被災者の皆さんから「遠くから来てくれてありがとうございます」としばしばおれを言われ、大変な状況の中で人を遣うお気持ちにとても感動したのを憶えています。復興した現地を訪れ、皆さまの温かい気持ちにまた触れることができます。思っていいます。

白赤医療センター ソル



震災翌日、救護班として石巻市内に入り避難所を回りました。水のない市内を住民の皆さんと共に徒歩で移動しました。あの日以来、石巻市は本当に特別な場所となりました。東北の天気予報を見るたび、あの時の空気の冷たさ、痛さを思い出します。春はもうすぐ！

成田赤十字病院 平中さつき

仮設診療所を設置し、診療開始の時期に派遣され活動しました。余震も続く大変な状況の中、「熊本から来てくれてありがとうございます」と言われた時や診療所に来られた方の笑顔を見て、私達も励みになりました。被災地の皆様の1日も早い復興と健康を心からお祈り致します。

白赤熊本健康管理センター 福田尚美



もう10年にならんですね。新型コロナのため、石巻とは1年間ご無沙汰してしまいましたが、また会いにいきますね。時間が経っても悲しいお気持ちちは変わらないと思いますが、少しでも元気出してもらえると嬉しいです。新聞配りにいったらお話ししましょう。

きずな新聞 佐藤俊一／しゅん(東京都)

10年間、たくさんの涙と笑顔を皆さんと共有しました。直接お会いした方、紙面を通して出会ってくださった方、すべての出会いに感謝です。11年目のこれからも、共に歩んでいきましょう。あの日を生き抜き、そして今日まで生きててくれて、ありがとうございます。

きずな新聞 岩元暁子／あき(東京／石巻)

